

ワクチン接種

群馬県は、建設業を対象とした新型コロナウイルスワクチンの優先接種を7月1日から始める。

群馬県建設業協会（青柳剛会長）によると、現時点で会員企業の5200人が接種を希望している。会場は県がGメッセ群馬展示ホール（高崎市）に開設した県央大規模接種センタ

1日から開始

建設業へ優先接種

群馬県

の一角で、建設業は1日当たり500人規模の接種ができるという。

群馬県の山本一太知事は16日の定例会見で、建設業従事者をエッセンシャルワーカーとして認定することを表明した。これまでの医療、福祉・介護、教育・保育、警察・消防の4分野から、第2弾として社会インフラの維持に重要な建設業、エネルギー・インフラ、公共交通の3分野を追加していた。

7月1日からワクチン優先接種

群馬県建設業協会(青柳剛会長)は、新型コロナウイルススワクチンの優先接種を高崎市にある県の大規模接種会場で7月1日に開始する。建設業をエッセンシャルワーカーに位置付け、優先接種の対象に追加した県と調整してきた結果、同日から始められる体制が整

群馬建協

った。公共工事をはじめ現場の工程に影響しないよう本部・支部・会員企業で調整し、1日500人規模で接種を進める。

群馬建協によると、25日昼時点で会員企業から約5200人が接種を希望している。最も多いのは約1300人の前橋支部になると

いう。支部ごとに1日の接種者を調整するなどして、円滑な接種を進める。ワクチンを無駄にしないよう、連絡体制を整え、接種当日にキャンセルする人が出ても代替者を用意できるようにする。災害復旧などの緊急活動に従事している建設業各社の接種に関する検討も続ける。

接種が始まるのに関し、青柳会長は「県の対応に感謝したい」と謝意を示した。その上で「なるべく早く接種を終え、いつ起きるか分からない災害に備えたい。災害対応組織力を高めようと、支部や会員とのオンラインのネットワークを整えてきた。ワクチンを無駄にしない措置を講じたい」と、万全な接種体制の構築に意欲を見せた。

群建協

7月1日から実施を

コロナワクチン優先接種

群馬県建設業協会（青柳剛会長）は建設業がエッセンシャルワーカーとして位置付けられたことを受け、新型コロナウイルスワクチンの優先接種を7月1日に開始する。まずは正会員企業の社員約5,200人が対象となり、1日500人規模で接種を進める。台風シーズンは本格化する前には2回目の接種にも目途がつく見通し。

接種は各社の現場を止めないよう進めたいと考えて、現在は詳細な日程や順番などの詰めを行っているところ。今後、接種の進捗に合わせて支部

会員や協力会社にも接種を広げる。

建設業をエッセンシャルワーカーと位置付け、ワクチンの優先接種を行うのは群馬県が全国で初めて。山本一太知事も16日の記者会見で「災害時に最前線に対応に当たる社会に欠かすことのできないエッセンシャルワーカー」と話すなど、建設業の担う役割に期待が寄せられている。